

2月休館日

5日(日)

11日(土・祝)

12日(日)

19日(日)

20日(月)

23日(木・祝)

26日(日)

27日(月)

## 1月にはこんな学びをしました

本年度の  
初任研も  
あと1回

### 1月18日 第16回初任者研修

午前は、「いじめのトラブル対応・不登校児童生徒への対応」について研修を行い、以前と変わったいじめの定義を学び、事例からその対応について考えました。午後からは、小中に分かれて、小学校は「外国語科・外国語活動の意義や実際」、中学校は、「トラブル時の保護者対応」について学びました。

#### 【参加者の感想】

- ・いじめについて、早期対応、早期解決を心がけ、組織で対応していくことが必要であると改めて思った。
- ・今後、外国語の授業では、リズムとテンポを意識して、児童が笑顔で活躍できるように準備をしていきたい。



### 1月24日 特別支援協力員研修会

集合研修を希望した方が参加して実施しました。参加者同士がグループで話し合いをし、各校での事例をもとに、支援や対応で工夫したことなどについて情報共有しました。最後に市の首席スクールカウンセラーから、児童の心理や接し方について話を聞きました。

#### 【参加者の感想】

- ・久しぶりに集合研修という形で情報交換ができ、たいへん有意義な研修であった。
- ・話し合いを通して、担任の先生の想いを大切にしながら支援にあたることの大切さを改めて感じた。



## 自主研修で学びを深めました

## 参加者の声です

### <教科基礎講座/小学校英語 第3回>1月20日

- ・アクティビティを行う上で、ただ基本表現を言わせるだけでなく、要所要所で子どもから発言(発音)させるような声掛けや子どもが発言(発音)したくなるような雰囲気づくりが大切だと思った。
- ・授業ですぐに活用できるアクティビティを教えてください、とてもよかった。
- ・他の先生方の表現も知ることができ、学びの多い時間を過ごせた。



### <教科基礎講座/小学校総合(国際理解)>1月27日

- ・様々な手法を体験する中で、子どもたちが世界について主体的に学習する手立てを教えていただいた。
- ・子どもたちが世界について学習する中で、改めて日本のよさや問題点に気づき、考えていくことができる場を設定していきたいと思った。



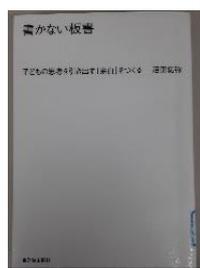
## 2月の自主研修の予定

開催日時	講座名	主な内容
2月3日(金) 第2研修室	小学校社会 「学習問題を追求する授業展開 とつかむ段階の工夫」	教科指導員による模擬授業を通して、疑問の引き出し方や意見の分類など、どの単元にも通じる進め方を学びます。
2月3日(金) 第1研修室	明日を拓くリーダーシップ研修 「現職教育の『ツボ』 まとめ編」	愛知教育大学 名誉教授 志水 廣先生を講師にお迎えし、1年間の取り組みを振り返りながら、本年度の学びを次年度にどのように生かしていくかについて考えます。
2月7日(火) (小学校) 第1研修室 2月15日(水) (中学校) 第1研修室	理科 「学びを深める理科実験」	講師に元名古屋市立中学校教諭の福地孝宏先生をお迎えし、小学校では6年生の「金属を溶かす水溶液」中学校では3年生の「星の一周運動」の指導法を学びます。
2月8日(水) 第1研修室 	教育相談研修 「臨床心理士と一緒に、子どもや保護者との接し方を見直そう！」	暴力を振るった子どもへの対応について、保護者が抗議してきた事例をもとに、適切な保護者対応をグループで話し合ったり、講師から保護者や子どもとの接し方について留意したりするポイントを聞いたりします。
2月17日(金) 第1研修室 	ミドルリーダーシップ研修 「1年間の取組を振り返ろう」	元一宮市立小学校長の神戸緑先生を講師にお迎えし、現職教育研究主任としての1年間の取組を振り返ると共に、来年度の現職教育実施に向けて、自校の教職員にどのように働きかけしていくかについて考えます。

## センター職員おすすめの1冊

教育センターの図書室に新しい本が入りました。各教科に役立つ本や教育心理の関係の本がたくさんあります。ぜひ、教育センター図書室でお手にとってみてください。

貸し出しにつきましては、センター職員にお声かけいただければすぐに手続きできます。返却はセンターへ持参していただくか、メール便を利用していただいても可能です。

<p>「イラストで見る保健体育(中学校)」/森良一 他編著 「ワークシートで見る社会(中学校)」/池下誠 他編著</p> <p>日々の実践的な教科指導に役立つ本が多くあります。1部紹介いたします。保健体育では、イラストを示しながら、1時間の授業の展開を示してあります。社会では、具体的なワークシートを提示し、ICTや対話のアイデアが掲載されています。(教科研究担当)</p> 	<p>「書かない板書 子どもの思考を引き出す「余白」を作る」/沼田拓弥 著</p> <p>日頃、こんな板書のお悩みはありませんか？ 「学んだことを書き残すだけの板書になってしまう」「板書をノートに全部写させるべきなのか迷ってしまう」「デジタルとアナログのバランスが難しい」 この本では、そんな悩みを解決するための「思考を引き出して広め、深めるためのツール」としての「開かれた板書」について学ぶことができます。(学習指導担当)</p> 
<p>「子どもの思考が動き出す 国語授業 4つの発問」 筑波大学附属小学校 白坂 洋一 著</p> <p>子ども主体の学びに寄り添うための「4つの発問」を通して、子どもの学びを引き出し、自覚化させていく方法についてまとめられています。理論編、実践編に加えて、教材別の4つの発問例も紹介されており、すぐに実践したくなる1冊です。(教科研究担当)</p> 	<p>「1人1台端末で特別支援教育が変わる」 青木高光 監修 全国特別支援学級・通級指導教室 設置学校長協会 編著</p> <p>Chromebook は特別支援教育でも大いに役立ちます。しかし、なかなか活用例に関する資料が少ないのが現実です。本書は、事例に特化した内容となっており一人一人の個性に合わせて、すぐに使えるアイデアが満載されています。(教育情報担当)</p> 